

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○ 初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○ 初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○ 初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○ 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○ 事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○ 身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○ お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○ 日常的な外出支援
 項目番号62 ○ 普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○ 電話や手紙の支援
 項目番号64 ○ 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 愛の家グループホーム郡山日和田

(ユニット名) てまり(1ユニット)

記入者(管理者)
氏名 平石 文紀

評価完了日 平成20年 4月 28日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛の家グループホームとしては以下の3点 1、その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを実現します 2、心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます 3、様々な機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします 郡山日和田独自では、パーソンセンタードケアの実践	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝夕2回の朝礼時、上記運営理念の唱和を、スタッフが一緒に行っている。また、それに沿ったスローガンを毎月掲げ、理念の実践に向け、日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会を通し、地域の方々へ広報誌を配布している。また、毎月の家族のお手紙などでも、理念を理解していただけるよう、内容の工夫に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩の時、近隣の方々のご挨拶を忘れないようにしている。また、ホーム長が毎朝玄関や駐車場を掃き掃除することで、ご近所や散歩中の方々との顔見知りの関係を作れるよう努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	川坂町内会に参加し、回覧板を回していただいたり、次に回したりすることで、地域の方々と交流を図っている。夏祭りでは多数の地域住民の方に来ていただき、定例の行事開催でも、交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会に参加し、介護に関する近隣の相談事に対応する体勢を整えている。	○	今後、機会があれば、介護予防や勉強会にも参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	いつでも過去の評価表を閲覧できるよう、玄関入口付近に配置している。毎出退勤時、目を通すよう伝達し、それを改善するよう努めている。また、月次報告書には自己評価の中からクリアすべき課題を抽出している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、GHでの活動の報告や懸案事項について協議したことを伝えている。また、話し合いを行い、意見要望を集めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会や行政センターを通じ、夏祭りの開催において TENT を借りるなど協力を頂き、交流が深まっている。	○	担当の方を行事にお誘いしているも、参加の実現にはまだ至っていない。1つのことを協働して成功させることで、より親密性を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修の機会で、管理者やホーム長、ユニットリーダーは知識を学んでいる。それを職員会議で全体に周知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を通して学ぶ機会を得ており、日常や申し送りのなかで職員に意識を伝達し、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、随時解らない事、疑問に関しては、統括マネージャー・統括ホーム長と連携をとり回答し、同意の下ご入居頂いている。事務所に契約書類を掲示し、いつでも内容確認できるよう、配慮している。	
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、訴えが入居者様から気軽に出てくるような関係作りを日々心がけている。申し送りを入居者様と共に行い、透明性を出すように工夫している。面会に特に制限もなく、いつでも外来者との接触が可能である。加えて、月に2回介護サービス相談員の方が来られ、入居者様の傾聴をしてもらっている。	
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の手紙により生活状況をお伝えするとともに、個々の出納帳をコピーし、領収証と共に、請求書送付時に同封している。職員の異動に関しても、口頭だけでなく、その旨を文書化し、同じように同封し、連絡させて頂いている。	
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に話す重要事項説明書にて、ご家族様に説明させて頂いている。また、半年に一度、各ご家族へのアンケートを送付している。ご意見箱も各フロアに設置している。また、「ご意見・ご要望・ご相談受付書」を作成し、職員が随時閲覧出来るようにしている。	
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者とマネージャーとのミーティングを月1回以上行っており、現場の意見を運営に反映させている。管理者は、毎朝・夕礼に必ず参加している。また、会議にて意見を集めている。	
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間の緊急時などには、リーダーとサブユニットリーダーをはじめ、即座に対応できるよう、体制を整えている。また、日中も人員配置を厚くし、対応に備え調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人研修や外部研修など、職員間が気軽に悩みを打ち解けられるような機会を設け、仲間づくりを推奨している。また、人事評価制度があり、結果を出した分正當に評価をし、職員のやる気を持たせている。加えて、記録や申し送りなどにより、入居者様の状態把握に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修からH L研修まで、役職に応じて内部研修を行い育成に努めている。外部研修も広く推奨している。また、各ユニットにU Lを配置し、現場では実践教育を行っている。年に2回以上個別面談の機会をつくり、目標達成のための現状改善方法等を助言している。		
20 ○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通しての仲間作りの推奨、他の介護施設に転職した方々と積極的にコミュニケーションを取ることで、情報交換をしている。	○	今後は、他施設と相互に研修をし合えるよう、その機会を多く設けていきたい。
21 ○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルーム以外に休憩室を設けてあり、畳やエアコン、書籍類を揃え寛げるようにしている。外には喫煙所も設置している。また、職員の誕生日には必ずサプライズ企画を起案し、お祝いすることで、喜んでもらっている。なお、10月に全職員を対象にしたアンケートを実施しており、不満の拾い上げや解消に努めている。		
22 ○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事評価制度を導入し、各個人の向上点の拾い出しを行い向上に努める様にフィードバックしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23 ○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
24 ○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
25 ○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26 ○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何事も共に行う事で、その方の力を最大限発揮して頂ける様日々働きかけている。職員の知らない歌を学んだり、できる入居者様には散歩時に車椅子を押して頂く等、相互に学び支えあう関係に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば随時連絡をとり、関係を築くよう努めている。行事や外出の参加等、呼びかけにより協力的に参加頂けるご家族様は増えてきており、共に支えていく関係は向上している。	○	将来的には、ご家族様より「家族会」が発足してくるよう、更に家族間、スタッフ間で関係を深めていく。行事参加などの促しは継続し、環境を整えていきたい。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時や面会時などに、今までの生活背景や細かい情報を教えていただき、理解する事で、入居者様のニーズに沿った介護の実現を心がけている。職員には「ご家族様対応マニュアル」を活用することで、積極的にご家族様と会話できるよう、工夫している。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出は地元を選び、思い出話をするなど、本人様のなじみの場所を考慮している。面会者は誰でも来て良い事にし、今までのなじみの関係を壊さないようにしている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の散歩や、月例行事などを通し、できることの把握に努めている。また、入居者様が顔を合わせる機会を多く設け、お互いがその力を発揮し合い、助け合いの行動が見られるようにまできている。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	止むを得ず退去される際などには、次の居住のフォローを行っている。その後の入居者様とご家族様の方向性に配慮し、退去時の支援をする事は、入居時に説明させて頂いている。また、いつでも入居者様の必要性がある時は、それに応じられるように心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、コミュニケーション、カンファレンスから、入居者様のニーズの把握をしている。また、ご家族様から今までの生活背景を教えてもらい、出来るだけその人の希望に沿った暮らしを援助している。		
34 ○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者様、ご家族様と十分な話し合いの場を設け、今までにどんな生活をしてきたか、どういった経緯で入居となったのかなど、話し合っている。また、他の施設利用があった場合は、先方との情報の共有をおこなっている。		
35 ○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々十分な観察を行い、毎日の介護記録に経過を残すことで、職員同士で把握し合っている。また、全体の申し送りを1日2回行う事で職員に周知し、全入居者様の24時間の状態把握が出来るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間での情報共有はしており、カンファレンスではフロアのほぼ全員の職員が参加し、それぞれの意見が反映されるよう意見を集めている。また、医師の意見も介護計画に取り入れ、医療面からも支援できるようにしている。	○	入居者様を交えたカンファレンスは少しずつ実現できている。今後はご家族様を含めたカンファレンスが開催できるようにしたい。
37 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決めた介護計画の見直しは出来ている。その時どきの状況変化に応じた介護計画の見直しも、適時できるよう、態勢を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を介護記録に残し、申し送りをする事で、情報の共有を図っている。また、ケアの実施結果を日々チェックし、カンファレンスに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署などを通して、安全性の確保を支援している。また月2回、相談員を招き、入居者様の傾聴をして頂いている。その他、行事でボランティアの方に来て頂いたり、民生委員の方を通して TENT を借りる、など協力して頂いている。また、地域資源を上手く活用し、外出や野外炊飯の際に利用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の購入、修理など必要があれば、病院、福祉用具事業者をはじめとした支援業者と連絡を取り合い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヵ月に一度、運営推進会議を開き、その場に地域包括センターの方をお招きし、アドバイスを頂いたり、意見を交わしたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より、かかりつけ医がいる場合はそのまま継続していただき、特になければ、地域の往診医を紹介している。	
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	南東北病院、ひわだ太田診療所との関係を深め、連携し、往診時に気軽に相談が出来る体制を整えている。	○ 最近では「認知症専門医」のいる病院を調べ、ご家族様に情報を提供している。今後、ご家族様と職員が相談に行く機会を増やし、専門医との連携も深めていきたい。
45			
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	南東北病院、ひわだ太田診療所などと連携し、情報の共有を図り備えている。入院時は医療機関と情報を密にして、ご家族様との情報のやり取りを適宜行っている。また、お見舞いや千羽鶴を折るなど、職員が進んで行っている。	
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	『重度化した場合における医療体制指針』において、文書にて公布している。	○ 方針や指針は示しており、職員間や家族間での指針の共有に努めている。課題はかかりつけ医との話し合いであり、更に具体的に話を進め、連携を深める必要が有る。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアに向け、文書などで指針を示したうえで、看護師を含め、体制を確保し、備えている。	○ 管理者、リーダーは講習会への参加を行い、意識統一している。今後は、全職員に理解を得られるよう、会議や勉強会などを通して伝達していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去や入居により入居者様の環境が変わってしまう時は、事前にご家族様、本人、関係者同士で十分な話し合いを持っている。他施設に転居する場合はサマリーを相互に提供し合い、現状とその後の方方向性を勘案し、配慮している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの今までの生活背景を考慮し、周囲に気づかれないように、入居者様が気を悪くされないような声掛けや対応をさりげなく行っている。また、居室はあくまで個人の空間と考え、プライバシーを守るようにしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎月の外出時、行事を通し、入居者様の要望に応え、食事を選んでもらったり、行きたい場所を言ってもらったりしている。また、希望する入居者様には、出来る範囲で、掃除や家事を手伝ってもらよう心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には入居者様のペースに合わせて過ごしていただいている。その人の生活背景や趣味に合わせ、レクの時間にはなるべく行いたいことの希望を叶えるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人様の愛用していた化粧品、道具を使ってもらえるようお話ししたり、月2回の訪問理容を利用し、希望者は整髪をしてもらっている。また、なじみの店でないと、という入居者様には、ご家族様の協力のもと、要望に応えられるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに応じた食事づくりを心がけている。その人の発揮できる力に応じて、盛り付けや配膳を職員と一緒にしたり、同じテーブルで同じ食事をとることで、コミュニケーションをとりながら、楽しく食事できるよう努めている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	基本的には入居者様の要望に応えられるよう努めている。ただ、状況によっては、ご家族様などの意見を反映させている。	
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「トイレでの排泄を第一に考える」ことで職員の意識を統一している。排泄の時間を記録したり、排泄のサインを読み取り誘導するなどして、気持ちよく排泄していただけるようにしている。	
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたい日や時間帯は、基本的には入居者様に決めてもらっている。浴室は基本的には二つあり、ゆとりある入浴を心がけている。夜間に関しても、入浴の希望があれば、職員の配置を留意したうえで、対応している。	
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の良眠のため、なるべく日中は活動してもらえよう、散歩やレクなどを行っていただいている。また、就寝時間や起床時間に決まりはなく、その人の状況に応じて、臨機応変に対応している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	その人の得意分野に応じて、家事などの生活レクや、畑仕事などで力を発揮していただいている。また、やりたいこと、行きたい所などは、入居者様と会話をし、要望を外出や行事などで実現しようと心がけている。	○ 書道や裁縫など、得意な方にお願いできるように、各階にチラシを配布している。皆様の要望がすぐ依頼として提供できるように、役割作りの支援をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	月1回の外出の際は、皆様お小遣いを持っていて頂いている。自販機でジュースを購入して頂いたり、食事代を自ら支払ったり、切符を買って頂いたり、出来る範囲でお金を使って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日の散歩を通して、外にでていただく機会を設けたり、その人の必要物品があれば一緒に買い物に行くなど工夫している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎月の外出時は、できるだけ地元を選んでいる。思い出話ができるようななじみの場所の提供を心がけ、そういった場所の把握も、ご家族様の面会時に相互に話し合うようにしている。また、事前に連絡を取ることで、少しずつご家族様の参加も実現してきている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	電話機はフロアにて自由に使用できるように配慮している。また、できる方は、毎月のご家族の手紙の中に、ご本人の自筆のメッセージを同封し、コミュニケーションがとれるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	玄関を清潔にし、入りやすい雰囲気作りに努めている。また、面会時間や訪問者には制限をせず、気軽に訪問できるよう、門戸を広く構えている。職員も常に明るくご家族に対応できるよう、意識を共有している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で身体的拘束廃止要項を決定し、各フロアに掲示し、職員へ意識を反映している。止むを得ず身体拘束をする際も決定しているが、原則はしないことにしている。また、薬や言葉による拘束をしないことを会社独自に指針として掲げ、会議などで職員に周知している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全フロアの扉を常に開錠し、入居者が自由に ホーム内を行き来できるようにしている。ただ、 玄関は、防犯上施錠しているが、申し出によりい つでも開錠でき、出入りできるようにしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	常に入居者の行動を把握するようにし、フロア内に いつでも一人は待機できるよう業務分担している。フ ロアはIの字型に設計しており、職員は全体が見渡せる ようなポジションを取るよう工夫している。見守り はさりげなく行い、また、昼夜問わず、居室に入る際 はノックをし、確認をとってから入室するなど、プ ライバシーに配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	薬、刃物類は事務所やバックヤードにて施錠でき る環境にて保管し、夜間や職員がいない場合は施 錠しているが、ポットなど日常的に使うものにつ いては、各入居者がいつでも使えるよう配慮し ている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合は、事故報告書に記入し、保 管して全職員が内容を把握できるようにしてい る。頻発する事故等に対しては、事故対策委員が 中心となり、会議を通して全職員で対策を考え ている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	緊急連絡事項を電話のそばに掲示し、すぐに連絡 できるようにしている。また、フローチャートを 用い、目を通すことで、スムーズに対応できるよ う工夫している。また、勉強会を開き、緊急時に 職員が慌てることのないよう、十分に知識を学ん でいる。急変時等は、内容に合わせて実技を踏ま えた内部講習を行い、その対策としている。	○	今後は、地区の消防署と連携し、救急・救命講習 を積極的に行っていききたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている	散歩時の地域の方々への挨拶、行事参加でのふれ あい、などを通して、ホームへの理解を働きかけ ている。また、消防訓練などを通して、働きか けている。	○	近隣の方々の行事参加は実現してきている。運営推 進会議でも協力体制については話し合い、今後は、町 内会との連携に力を入れていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時など、入居者様の環境の変化に応じて、どうした方が良くかご家族様と話し合っている。また、体調の変化などあれば、こまめに連絡を取るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前と午後の2回バイタルチェック行い、表情や状態の変化を細かく観察している。また、何かあった場合、即座にユニットリーダーやホーム長に報告し、迅速な対応を心がけている。異変時の状態は記録に残し、全体の申し送りなどを通して、情報の共有を図っている。		
74	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、追加がある場合は、その都度職員間で伝達している。また、薬箱や介護記録に処方箋を添付し、職員が薬についての情報を常に得られるよう、環境を整備している。また、服薬マニュアルを整え、すぐに確認できるよう、介護記録に閉じこんでいる。		
75	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩で体を動かしていただいたり、水分補給をまめにさせていただくことを勧めている。水分摂取の少ない方は、ゼリーや果物を提供し、対応している。また、往診の医師への相談を適宜行い、服薬の検討などを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している入居者様には声かけにて行っていたき、難しい方は出来るところをさせていただくことで、その人の力を十分に活用しながらケアにあたっている。また、往診の医師との協力態勢も作っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房にて一括調理であり、栄養士が栄養バランスを考え、献立を考えている。また毎食後、職員が各入居者様の摂取量を確認している。入居者様の状態によっては、代替品をお出しするなど、個別の対応も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防についての対策は、予防マニュアルを設け、それに沿って実施している。また、インフルエンザについては、毎年予防接種を行い、対応している。更に、外部研修を通し、職員の知識向上に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日マニュアルに沿い、ふきんやまな板などの調理用具を殺菌消毒したり、調理場を清潔にすることで対応している。食材に関しては、農家より直接買いつけ、新鮮なものを提供している。また、冷蔵庫内をこまめに点検し、古い食材はすぐに入れ替えるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物や花を飾り、玄関先をにぎやかにしている。また、風除室に入居者様と作成したウェルカムボードを取り付け、毎月取り替えることで、季節感を出すことを心がけている。ホーム長は、毎朝駐車場や周辺を掃き掃除し、挨拶と清潔に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明るさは、外からの光の具合を考えその都度調節している。また、カーテンの色もあまり際立つ色は避け、落ち着いたものにするようにしている。職員は入居者様に配慮し、騒がしくしたり、むやみに大きな音を出さないようにしている。また、壁紙やカレンダーは季節に合ったものにし、入居者様と一緒に作り、フロアに飾ることで、季節感をだしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンなど居室間をさえぎるものは避けている。居室は入居者様のプライベート空間と意識し、一人になれる環境を提供している。また、玄関先や廊下奥にはイスを配置したり、テーブルを三つに分けたり、気の合った者同士、気軽に利用していただけるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 こせるような工夫をしている	入居時には、嫁入り道具の鏡台など、なじみの深 い家具、大切にしていたもの、思い出深いものを 持ってきていただくよう、ご家族様、入居者様に 説明し、今までの生活環境を継続できるよう、配 慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	においがこもったりしないよう、廊下や居室の換 気をこまめに行っている。また、温度のぼうも、 外気や利用者様の状況に応じて、夏場は冷房28 度にし、冬場は暖房23度するなど、適正なもの に調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	トイレや浴室、フロアや廊下には、安全面を考え 手すりを設置している。また、物干しも、入居者 様が安全に行えるよう低いものにし、座っても干 し方が出来るように配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレや浴室などの扉の前には、混乱や失敗を最 小限にするように、入居者様の目の高さに合わせ て、温泉マークのように分かりやすい表示で案内 板を掲げている。居室前にはのれんをかけ、視覚 的にすぐ自分の居室である、ということが分か るように工夫している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	フロアから中庭は出入り自由であり、畑を作って 入居者様と家庭菜園を楽しんだり、物干しを設 置することで、入居者様と洗濯物干しを行えるよ うにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全 での利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全 での利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全 での利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全 での利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全 での利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全 での利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全 での家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日 のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、全入居者様が参加する事を目標に散歩に出かけている。季節の行事、毎月の外出計画など、日常に楽しみを持って生活を送って頂けるよう、支援している。入居者様だけでなく、スタッフも楽しめ、共に喜びを分かち合うケアに日々努めている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

・理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○ 初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○ 初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○ 初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○ 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○ 事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○ 身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○ お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○ 日常的な外出支援
 項目番号62 ○ 普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○ 電話や手紙の支援
 項目番号64 ○ 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 愛の家グループホーム郡山日和田

(ユニット名) たけとんぼ(2U)

記入者(管理者)
氏名 平石 文紀

評価完了日 平成20年 4月 28日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。 1、心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。 1、さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします。 郡山日和田としては、パーソンセンタードケアの実践をしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝・夕礼時に唱和をしている。それに向け、毎月スローガンを掲げ日々ケアを行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進委員会を通して、地域の方々へ広報誌を配布し、又、毎月ご家族へのお手紙などでも、理念を理解して頂く様努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩を通して、近隣の方々への挨拶をしている。又、行事へのお誘いをしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加している。地域の方々に夏祭りに参加して頂いて、地域の方々と交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会に参加し、介護に関する近隣の相談事に対応する体勢を整えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	いつでも閲覧できる場所に置き、毎出退勤時、確認する様伝達し、それを、実践する様努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、グループホームの活動報告や、話し合いを行い、意見・要望を聞いている。また、ご意見や要望の聞き取りや、疑問点などの相談に乗って戴いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会や行政センターを通じ、夏祭りの開催において TENT を借りるなど協力をいただき、交流が深まっている。	○	相当の方を行事にお誘いしているも、参加の実現にはまだ至っていない。一つのことを協働して成功させることで、より親密性を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修にて当法人研修の機会で管理者・HL・UL は学ぶ機会を得ている。それを職員会議で皆に周知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、外部研修にて学び、職員へ伝達し、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書・重要事項説明書の説明を行い、随時、解らない事、疑問に関しては、統括マネージャー、統括ホーム長に連絡し、回答し同意のもとご入居頂いている。又、各ユニットにも掲示してある。	
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に制限が無く、ご家族様などを通して、意見が言えるようになっており、又、入居者様から苦情が言い易いコミュニケーションに努めている。又、毎朝・夕申し送りを、入居者様の前で行っている。なお、苦情までいかないご意見等については、ご意見・ご相談・ご要望受付書に残し、早期解決に努めている。	
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお手紙で、暮らしぶりや健康状態を報告し、出納帳のコピー及び領収書を送付している。職員の移動に関しても口頭だけでなく同封して送付している。	
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に、重要事項説明書にてご家族へ伝達している。又、半年に一度各ご家族へアンケートを実施している。ホーム内に『ご意見箱』を設置している。また、相談窓口を設け掲示し苦情や相談を受け付けることの出来る様にしている。	
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者とマネージャーとのミーティングを月1回以上行っており、現場の意見を運営に反映させている。毎日の朝・夕申し送りに参加し、又、全職員参加の全体会議に等にて意見を反映させている。また、行事や職員の発案に関しても出来る限り実現しモチベーションの向上に努力している。	
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間の緊急時など、迅速に対応できるよう体制を整えている。又、日中も受診など、家族の対応ができるよう、人員を厚めに配置している。また、看護師の配置も夜間24時間体制で連絡がつく体制をとっており状況に応じての対応が出来るようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	外部研修を通じての仲間作りの推奨、他の介護施設に転職した職員と積極的にコミュニケーションをとることで、情報交換をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修からホーム長研修までを内部研修としてもち、段階に応じた育成に努めている。外部研修を推奨している。各ユニットに、ユニットリーダーを配置し、現場での実践教育をしている。年に2回以上個別面談の機会をつくり、目標達成のための現状改善方法等を助言している。		
20 ○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	転職者が気軽に遊びにこられる環境であり、外部研修で仲間作りを推奨して他業種等の会話をしながら、横のつながりを確立している。		
21 ○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルーム以外に休憩室を設けてあり、畳やエアコン、本棚などを置き、くつろげるようにしている。又、喫煙所も設置している。職員の誕生日にはサプライズを提案・実践している。なお、10月に全職員を対象にしたアンケートを実施しており、不満の拾い上げや解消に努めている。		
22 ○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事評価制度を導入し、各個人の向上点の拾い出しを行い向上に努める様にフィードバックしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、家事など共に行うことで、感謝の気持ちを表し、レクリエーション(習字・歌)を通して学ぶことの大切さを知り、散歩時、車椅子を押して頂くことなどで支えあうことを築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	少しのことでもご家族様とは随時連絡を取っており、ご本人様が今までの生活サイクルを崩さず、暮らしやすい環境づくりにしている。又、行事等の参加を呼びかけし、参加いただいている。	○	家族会の発足までには至っていないが、ご家族様への行事等の呼びかけを行い、来て頂いている。今後も継続して行うものとしていく。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時・面会など、生活背景を聞き取り、理解に努め、そのニーズに合ったケアを心掛けている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出先は、入居者様の馴染み深い場所を選び、思い出話をして頂くなど、場所に配慮している。又、年賀状などの支援を行い、関係を途切れないようにしている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩など、日々の行動の中で支え合う場を作り、外出など行動範囲が広がるように支援している。(各入居者様のできることを把握した上で)。又、職員が間にはいり、入居者様の関係を取り持つようにしている。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず退居する際などは、その後の家族と入居者様を配慮し、退居後の支援をすることを入居時に説明している。また、退去後も入院先にお見舞いに行くなどし、ご本人様、ご家族様のメンタル面でのサポートを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、カンファレンスを通じ、コミュニケーションを大切にしてその方のニーズ把握に努めている。又、背景を家族から聞き取り、ニーズの把握に努めている。		
34 ○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様などからのアセスメントやご家族様の面会時など聞き取り、背景の把握に努め、又、ケアを受けていた方などは、先方からの情報を共有している。		
35 ○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人別記録の記入、及び、毎日2回の全体申し送り情報共有を図り、24時間の状態把握に努めている。又、出勤時に職員間での申し送りを通じ、迅速に行動できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書をご家族様にお渡しする際、日々の電話や面会時、随時計画書で取り上げて頂きたいこととお聞きし、反映している。又、各入居者様の主治医の見解や必要事項を掲載している。	○	今後、ご家族様へのカンファレンスへの参加を呼びかけ、実施していく。
37 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間を決めた介護計画の見直しは出来ている。その時どきの状況変化に応じた介護計画の見直しも、適時できるよう、態勢を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を 個人記録に記入し、又、申し送り で情報を共有し、実践されていたかも記録し、カンファレンスに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署などの協力を求め、安全性の確保を支援している。又、月2回相談員を招き傾聴して頂いている。その他行事にはボランティアを招いている。	○	移動図書館など地域資源を活用していきたい。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば病院や福祉用具事業者、支援事業者と連絡を取り、支援をしている。		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催しその中で、意見を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を促し、いない方は、地域の往診医を紹介している。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域医療を利用し、往診時に気軽に相談できる。 (ひわだ太田診療所・南東北病院と連携)		
45				
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	南東北病院とひわだ太田診療所と連携し、情報の共有を図り、備えている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護計画書をお渡しする際、ご家族様には、ターミナルケアへのご意向を確認している。但し、かかりつけ医との話し合いまでには至っていない。	○	今後は、ご家族様・かかりつけ医とのターミナルケアに向けての方針を共有していく。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアに向けて家族へ文書などで指針を示した上で、看護師を含め、体制を確保し備えている。	○	各職員への周知、理解へは至っていない。今後、勉強会等で全職員と検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時に環境に変化が生じる場合には、現状とその後の方向性を勘案し配慮している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づき管理しています。周囲のひとへ気づかれないようにさりげなく、声掛けし、又、居室はあくまでも個人の居室空間であることを職員へ周知している。	○	職員主体でケアをしていることも否めず。更に徹底を図りたい。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎月の行事計画などに入居者様の意向を反映し食事など入居者様に決定して頂いている。又、生活介助においても、入居者さまの意思で行動できる様支援している。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間に制限はなく、食事の時間も自分のペースで希望に添った支援をしているが、入浴について、時間などの制限が見られるが安全面を考慮した上で出来る限り本人の意向に沿った入浴を提供している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	毎月2回の訪問理容を利用し、本人が他を希望される時は、家族への協力を促すなど希望に添える様支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出や誕生日会等の行事は入居者様の意見を取り入れてる。又、日常の食事においても、入居者様の意見を取り入れてる。配膳については、ご自分でできる方については行って頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の望まれるものはできる限り、楽しめるように支援している。ただし、お酒・煙草については家族やかかりつけ医との話し合いをもって、制限していただいている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご入居者様に応じて、排泄チェック等を実施し、できる限り、トイレでの排泄を促す様に努めている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご入居者様の希望に添える様に努めている。又、プライバシーも考慮し、声掛け程度におさえ一人で楽しめる支援も入居者様によっては行っている。浴室も2箇所あり、時間にも余裕がもてるようにしている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室内での入眠は昼夜を問わず妨げることはしていない。夜間の就寝時間帯の制限はしていない。又、午前中の散歩を実施し、一日のリズム作りを支援している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	その人の生活歴を把握し、レクリエーション等に活かした支援をしている。又、毎月1回外出をし、外出先を思い出の場所などを選び楽しんで頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的に金銭管理はホーム側で行っているが家族の了解を得て、個人で管理している方もいる。又、買い物の際商品を選んでいただいて、支払いまでに至っている。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日の散歩にて戸外に出る機会をつくり、行事以外、買い物など希望がある場合、その都度支援している。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎月の外出先は入居者の馴染み深い場所を選び、思い出話をして頂く等、場所に配慮しているが、家族と出かけるまでには至っていない。	○	外出については、ご家族様にも事前連絡を行い、参加していただけるようご協力いただく。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	電話機はフロアー、スタッフルームに設置することにより、自由に使用できるようにしている。又、携帯電話の所持も認めている。年賀状などの支援もしている。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間に制限は無く、玄関を清潔に保っており、入り易い雰囲気作りに努めている。又、職員は、明るさ、挨拶を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束廃止要項を掲示し(ユニット毎)、又、全体会議・ユニット会議を通し全職員に理解するよう周知し、身体拘束をしないケアをする様努めている。又、ドラッグロック・スピーチロックも同様に考え、努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中フロアー玄関は開放しており、入居者様が各フロアーへの移動は自由にできる様になっている(ホーム全体がひとつの家として考えている)。但し、防犯上施錠しており、入居者様の出たいという意思があれば、いつでも出られるようにしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、職員間での連携をとり、フロアーに必ず1名は居る様にしている。又、居室へ訪室する際は入居者様の了解を得てから入室している。夜間は食堂テーブル所定の場所で見守りができる様にしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類、薬品類はスタッフルーム(施錠可能な所)にて保管し、職員の居ない場合施錠している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットの提出を促し、報告書に全スタッフがチェックすることで事故防止に努めている。尚、事故対策委員会を設置し、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを電話脇に掲示し、フローチャートに目を通すことで発生時に備えている。又、勉強会などで有事に備えている。	○	今後は、地域の消防署と連携し、救急・救命講習を積極的に行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法定2回、消防訓練を実施している。又、消防訓練や散歩を通して、ホームへの理解を働きかけている。	○	近隣の方々の行事参加は実現してきている。運営推進会議でも協力体制については話し合い、今後は、町内会との連携に力を入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	薬セット箱、個人記録簿に処方箋を添付し、服薬する際確認する。変更が生じた場合、その都度周知し確認している。又、服薬マニュアルの実施により、事故防止に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日同時間帯でのバイタルチェックを実施し、体調の変化を確認している。又、変化が確認された時はUL・HLへ報告し、指示などを受けている。又、個人記録・日報に記録し、全体申し送りで情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット箱、個人記録簿に処方箋を添付し、服薬する際確認する。変更が生じた場合、その都度周知し確認している。又、服薬マニュアルの実施により、事故防止に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩など適度な運動と水分補給を行っている。又、往診時、医師への報告を行い服薬の検討を適宜行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している方は、ご自分で口腔ケアをして頂いている。但し、一部介助を必要な方には、介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房にて一括調理し、栄養士により栄養バランスを考え献立を立てている。又、介護職員が摂取量を確認している。更に、ご入居者様の状態に応じた個別の対応を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し実施している。又、インフルエンザについては、予防接種を受け、対応している。更に、外部研修へも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日マニュアルに沿い、布巾を漂白消毒を実施し、まな板・包丁についても、その都度アルコール消毒を行っている。食材については農家より仕入れており、厨房保管庫にて一括して管理している。又、毎日冷蔵庫内を点検し、賞味期限切れの物はその都度、廃棄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に草花を置き、明るい雰囲気を出している。また、玄関にウエルカムボードを入居者様と作成し、季節感を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや壁絵を入居者様と作成し、(季節に合わせて)フロアーに掲示している。又、照明の明るさを外からの光と合わせて調整している。カーテンの色にも明るすぎるものは無く、落ち着いたものをしようしている。スタッフは入居者様に配慮し、大きな声や騒がしい音を出さない様気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー入り口、又、奥にベンチを置き、気の合う入居者様が話し合える場所を設けている。カーテンなどの仕切りも無く居間のソファがベッドになり寝ることができる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使ってきたものを使用して頂く旨 説明し、思い出深いものや好みのもを設置し、 在宅時の環境を継続して頂くよう努めている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	臭いがこもらない様適宜換気を行っている。居室 内温度も入居者様に合わせ調整している。夏場を 28 、冬場を23 に設定している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロアー内、トイレ内、浴室には、手すりを設 置している。又、低い物干しを用意し、入居者様 の身体機能を活かせる様配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレや浴室などの表示は、混乱や失敗を最小限 にする様、目線の高さに合わせたり、大きな文字 で表示している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	1F屋外に物干しを設置し、入居者様と一緒に洗 濯を行ったり、又、季節によって野菜を作り、食 事作りに活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている ○少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の○2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の○2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の○2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・月の外出では、入居者様より、「すごくよかったよ。又、いい外出を提案してくださいね」と大変好評です。お手紙を送付した際、ご家族様より、大変好評いただいております。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○ 初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○ 初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○ 初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○ 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○ 事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○ 身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○ お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○ 日常的な外出支援
 項目番号62 ○ 普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○ 電話や手紙の支援
 項目番号64 ○ 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 愛の家グループホーム郡山日和田

(ユニット名) おりがみ(3U)

記入者(管理者)
氏 名 平石 文紀

評価完了日 平成20年 4月 28日

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛の家グループホームとしては、以下の三点 その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。さまざまな機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にします。郡山日和田としては、パーソンセンタードケアを理念として掲げ、想像から創造へというスローガンの元、日夜努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼及び毎夕礼時に唱和し、それに向けた毎月のスローガンを掲げ日々ケアを行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会を通し、地域の方々へ広報誌を配布している。また、毎月の家族への手紙等でも、理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩の際に、近隣の住人の方への挨拶を行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行う行事に地域の方々をお招きし、入居者様と交流を持つ場を設けた。更に、町内会に入会したことにより、今後より交流が増えていくものと思われる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会に参加し、介護に関する近隣の相談事に対応する体勢を整えている。	○	今後、機会があれば、介護予防や勉強会にも参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	いつでも見ることのできる場にあり、毎出退勤時に確認するよう伝達し、それを実践するよう努めている。また、月次報告書には自己評価の中からクリアすべき課題を抽出している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同会議では、GHでの活動の報告や話し合いを行い、意見、要望を吸い上げ、サービス向上に活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会や行政センターを通じ、夏祭りの開催において TENT を借りるなど協力を頂き、交流が深まっている。	○	担当の方を行事にお誘いしているも、参加の実現にはまだ至っていない。一つのことを協働して成功させることで、より親密性を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修の機会で、管理者やホーム長、ユニットリーダーは知識を学んでいる。それをスタッフ会議で全体に周知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修にて学び、日々職員へ伝達し防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書と重要事項説明書の説明を行い、随時、分からないことや疑問に関しては、統括マネージャー、統括ホーム長と連携を取り解答し、同意の下ご入居いただいている。また、各ユニットごとにも掲示している。	
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えを利用者の方にいつでも言ってもらえるような関係作りを日々心がけている。また、申し送り時も入居者様とともにやっている。更に、面会に制限は無く、いつでも外来者との接触ができる。更に、介護相談員とも直接交流を持っている。なお、苦情までいかないご意見等については、ご意見・ご相談・ご要望受付書に残し、早期解決に努めている。	
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にお手紙等で入居者様の状態をお知らせしている。また出納帳もコピーし領収書とともに毎月送付している。職員の移動等についてもその都度お手紙等でお知らせしている。	
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に重要事項説明書にて、ご家族へ伝達している。また半年に一度、各ご家族へアンケートを送付している。ホーム内にご意見箱を設置している。苦情窓口の設置を行い各フロアの掲示板に窓口の連絡先の掲示を行っている。更に、ご家族からの意見、ご要望をノートにまとめ、スタッフが随時閲覧できるようにして周知している。	
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者とマネージャーとのミーティングを月1回以上行っており、現場の意見を運営に反映させている。毎朝礼及び毎夕礼時に必ず参加している。また、全職員対象に開催している会議等に参加し意見を聞いている。	
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間等の急変時には、迅速に対応できるような対策を整えている。また日中も人員配置を厚くし、対応できるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	外部、内部の研修を持ち、悩みや相談ができる仲間作りを推奨している。また、人事評価制度を導入し正当な評価に努めている。記録や申し送り等により、入居者様の状態を把握するよう努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修から、ホーム長研修を内部研修としてもち、段階に応じた育成に努めている。外部研修も推奨している。また、各ユニットにユニットリーダーを配置し現場での実践教育を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで仲間作りを推奨している。加えて、退職した職員も気軽に遊びに来ており、その都度情報交換を行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルーム以外に休憩室を設けてある。畳やエアコン、本棚等を置き、くつろげるようにしている。また、喫煙所も設置している。更に、スタッフ一人ひとりの誕生日を趣向を凝らして祝っている。なお、10月に全職員を対象にしたアンケートを実施しており、不満の拾い上げや解消に努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事評価制度を導入し、各個人の向上点の拾い出しを行い向上に努める様にフィードバックしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)			
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に掃除やごみ集め及び炊事等また、散歩の際の車椅子押しを協力して行うことの中から助け合うことを学び、感謝する精神の大切さも学んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、随時連絡するよう取組んでおり、また行事へ参加されるご家族の人数も増えてきてはいるが、まだ不十分である。	○	家族会発足までは至っていないが、少しずつではあるが行事への家族の参加も増えてきている。今後、より呼びかけを行い増やしていきたい。
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時や面会時等に、随時生活背景を聞き取り理解に努めるようにしている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出先は、なるべく馴染み深い場所を選び、思い出話をするなど場所等に配慮している。また、面会者等の制限は設けていない。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々、入居者さんのできることの把握に努め、散歩時や生活レクの中でお互いその力を発揮し支えあうよう支援している。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず退去する際は、その後のご家族と入居者様の方向性に配慮し、退去時の支援をすることを入居時に説明させていただいている。また、退去後も入院先にお見舞いに行くなどし、ご本人様、ご家族様のメンタル面でのサポートを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活やカンファレンスの中でコミュニケーションを大切にし、その方のニーズ把握に努めている。また、背景を家族より聞き取りニーズの把握に努めている。	○	カンファレンスを充実し、職員同士の情報の共有を図っていききたい。
34 ○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時等にご家族様などから生活状況を聞き取り、また、ケアを受けていた方などについては、先方との情報の共有に努めている。		
35 ○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の全体申し送りや、個人の記録をつけ、24時間の個人の状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間での情報共有は計られているが、それぞれの意見が反映されるには至っていない。	○	今後、ご家族ご本人を含めたカンファレンスを実施していききたい。
37 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に応じた見直しを図る態勢は整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を介護記録に記録し情報を共有している。また、実践されたかを記録し、カンファレンスに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署等の協力を求め、安全性の確保を支援している。また、月2回相談員を招き、入居者様のお話を傾聴している。さらに、行事には、ボランティアをお招きしている。	○	移動図書館等の活用等、地域資源の更なる活用を行っていきたい。
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状として、意向や必要性があれば、病院や福祉用具事業者、支援事業者の方などと連絡を取り支援している。		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、その中で意見を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居以前よりかかりつけ医が居る場合は継続していただき、居ない場合は、地域の往診医を紹介している。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ひわだ太田診療所と南東北HPと連携し、往診時等に気軽に相談ができる体制である。		
45				
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	南東北HPとひわだ太田診療所等と連携し情報の共有を図り、備えている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における、医療体制についての指針を文章で交付し方針を示している。	○	カンファレンスを通し、ご家族との共有を図ってはいるが、かかりつけ医とは共有までには至っていない。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアに向け、ご家族へ文章等で指針を示した上で、看護師を含め体制を確保し備えている。	○	管理者及びリーダーは講習会への参加を行っている。今後、全職員への周知及び勉強会を行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時等、ご本人の環境に変化が生じる際には、現状とその後の方向性を勘案し配慮している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づき管理している。入居者様の個性に合わせた対応をし、むやみに声をかけたり、周囲に気付かれることの無いよう努めている。又、分かりやすく穏やかに接するよう心がけている。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎月の外出時や行事などの際、行きたい場所や、食べたい物を職員と共に決めている。又、生活介助の中でも出来る事を発揮して頂けるよう働きかけている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重する事に努めているが、現状入浴の順番等、時間で決めている事もある。	○	よりニーズの把握に努め、できる限り入居者様のペースに近づけていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	月2回訪問理容を導入しており、適宜どんな髪型にしたいか等入居者様の希望にそえる様努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、入居者様と共に配膳や片付けを行える様努めている。又、嗜好についても把握に努め、その方の好みの物を提供出来る様努めている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様の状況によるが、ご家族様や医師を含め、入居者様と話し合い嗜好品の提供を行っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄時間を記録し、排泄時期の把握に努めると同時に、生活習慣の把握にも努め、それに合わせた声掛け、誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は2箇所有り、焦る事無く入浴できる様配慮している。又、入浴日の指定もなく日数の制限もないが、早朝・深夜については安全面等から避けて頂いている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中に散歩等の活動的なレクを取り入れ、夜に向けてスローダウンしていく生活リズムを作っている。又、眠れなかった状況等を介護記録に記載し、日中の行動とあわせ個別に検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活の中でその人の出来ることを見出し、食器を洗っていただく、掃除をしていただく等、場面作りをしているが楽しみ事の活動はまだ少ない。	○	書道や裁縫など、得意なことを活かせる場面作りに努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	金銭管理は、基本的にはホームで行っているが応じて自己管理をして頂いている。外出の際に、希望があればお小遣いを持っていただき、使える機会を提供している。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎日の散歩等希望により適宜対応している。又、その際は無理に行くのではなく楽しく行ける様働きかける等、希望に応じ適宜対応している。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	毎月の外出で地元や馴染みの場所を選び、思い出話をする等支援しているが、ご家族様の参加はまだ少ない。	○	ご家族への働きかけは行っており、ホーム内での行事への参加者は増えてきている。今後は、外出への参加の働きかけをより一層行っていきたい。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	電話はフロアにも設置しており、自由に使用出来る様にしている。又、希望に応じスタッフルームで通話して頂く事も可能である。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間等の定めはなく、玄関を清潔に保ち入りやすい雰囲気作りに努め、いつでもお越し頂けるよう配慮している。又、職員は笑顔を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止要綱を策定し、すべてのユニットに掲示し拘束をしないケアを実践している。やむを得ずする場合も策定しているが、原則しないこととしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体を一つの家として考え、ホーム内を自由に往来できるようユニットの施錠をしない等配慮している。玄関は防犯安全上内側を施錠しているが、申し出によりいつでも自由に出入りできるようになっている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中必ず1名は、フロアに待機できるように業務分担を整えている。また、昼夜問わず居室に入る際には、声掛けをしてから入室するなどプライバシーに配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物等の危険なものは、必ず事務所において保管しているが、職員が居ないときは施錠し対応している。それ以外のポット等日常的に使うものについては、各入居者様がいつでも安全に使えるよう配慮している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合は、事故報告記録書に記録し、事故につながる可能性がある場合は、ひやりはつとに記録して再発防止に努めている。また、頻発する事故については全体会議で改めて対策を話し合う場を設けている。更に、事故対策委員会を発足し、事故防止に取り組んでいる。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡体制が電話のすぐ脇に貼られており、フローチャートを用い連絡が取れる体制ができており、常にみるよう指導し働きかけている。また、勉強会等も行い、有事に備えている。	○ 今後は、地区の消防署と連携を取り、救急・救命講習を積極的に取り入れていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	散歩の際等、地域の方へ挨拶を通しホームへの理解を働きかけている。また、消防訓練等を通して働きかけている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や定期的な連絡時に小さな変化についても連絡し、情報の共有を図っているが、リスクについての対応策を話し合うまでには至っていない。	○	今後更に連絡を密に取り、対応策や今後についてなど連絡を図り、リスクについても対応策を話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○ 体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルチェックを行い、更に変化に気付いた時には、ユニットリーダーに報告し、記録を残す。さらに、個人記録を残し申し送り時に情報の共有に努めている。		
74	○ 服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や量の変更時には、記録に残し目的や副作用の内容を職員が共有するようにしている。変更があれば申し送りをし、個人記録に添付し事故が起きないよう服薬マニュアルの実施を行っている。		
75	○ 便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の散歩や適度な運動を促し、こまめに水分補給をしていただくことを心がけている。また、往診の医師への相談を適宜行い、服薬の検討等を行っている。		
76	○ 口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している方には自らしていただき、一部介助が必要な方には介助を行っている。又、往診歯科医との提携医療も行っている。		
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房職員にて一括調理であり、栄養士がバランスを考えて献立を組み立てている。また、毎食介護職員が、摂取量の確認及び記録を取るようになっている。さらに、状況に応じて代替食品を用意するなど、個別の対応も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防については、感染症マニュアルを設けそれに沿って実施している。又インフルエンザについては、毎年予防接種を行い対応している。更に、外部研修へも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布きんは、毎日漂白消毒を行っている。まな板、包丁については、その都度アルコール消毒を行っている。食材については農家より直接買い付け、その管理は厨房保管庫にて一括で行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に草花を置き、明るい雰囲気作りをしている。また、玄関先には季節感を出したウェルカムボードを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度、光の状況に応じて明るさを調節している。カーテン等は派手なものではなく落ち着いた色を使っている。職員は、入居者様に配慮し大きな声を出したり、むやみな音を出さないよう気をつけている。季節に合ったカレンダーや壁紙を入居者様と作成し、フロアーに掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテン等の仕切りも無く居間のソファもベッドとして利用でき、一人で過ごせるようにしている。また、フロアのベンチで気の合った入居者さん同士で過ごしていただける空間作りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れた物や大切にしていたもの(思い出深いもの)を持ってきていただくよう、ご家族と入居者様に説明し、在宅時の生活を継続できるよう努めている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いがこもったりしないよう、居室や廊下の換気を適宜行っている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内や浴室、廊下、トイレには、手すりを設置し、浴室内には滑り止めマットを敷くよう工夫している。物干しなどでも、入居者様の高さに合わせた物を用意し、身体機能を生かすようにしている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や浴室の表示は、混乱や失敗を最小限にするよう目線に合わせた高さにしている。また、状態に合わせ人形や写真等で、自分の居室を把握していただけるよう努めている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関・ベランダにプランターを用意し、水撒き等楽しんでもらえるよう配慮している。さらに、安全のために施設はしてあるが、ベランダに物干し場を置き入居者様が物干し等を行えるよう配慮している。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

パーソンセンタードケアの実践に力を入れて取り組んでいる。できることとできないことを把握し、入居者様のできることを活かしていただくようにしている。そのために入居者様とのコミュニケーションを日々少しでも増やし、入居者様の生活機能の把握や思いを感じ取りケアに活かしている。